

## 2025 年 12 月 14 日（日）第二礼拝「クリスマスの準備」マタイ 2 章 1～12 節

天地万物を造られた創造主が、御座を捨て、この地の飼葉おけに赤ちゃんとして生まれたのがクリスマスです。このクリスマスの準備ができている人と、そうでない人がいます。

第一番目、東方の博士のクリスマス準備です。クリスマスとは、イエス様を礼拝することです。東方の博士たちは、ユダヤ人の王としてお生まれになった方を拝むためにエルサレムにやって来ました。これは、「…ヤコブから一つの星が上り、イスラエルから一本の杖が起り…(民数記 22：17)」という神様からの啓示に、彼らが反応したからです。礼拝とは、神様からの啓示に対する人間の反応です。彼らは天文学者で、ダニエルから旧約の内容を聞き、自ら聖書を読み、メシアを信じていました。星が現れたらエルサレムに行くために、らくだや旅費、王に捧げるプレゼントを用意しました。そして、ついにその星が現れた時、すぐに出発しました。旅行は危険が伴うものでしたが、星に導かれ、とうとう幼子を見つけ、彼らはひれ伏し、黄金、乳香、没薬を捧げることができたのです。準備すべきものはすべて、神様が用意されました。彼らが捧げた富は、イエス様のエジプトでの生活の支えとなりました。

第二番目、クリスマス準備ができていない人です。ヘロデはユダヤの王の誕生を聞き、非常に恐れ、とまどいました。エルサレムの人たちも同様でした。福音を聞いたにも関わらず恐れたのは、自分が王だと思い、競争意識が働いたからです。ヘロデは宴会など自分のスケジュールに忙しく、イエス様を礼拝しに行きませんでした。同様に、祭司や学者たちも、イエス様が生まれる正確な場所を知っていたにも関わらず、礼拝に行きませんでした。礼拝に繋がらない知識、行動無き信仰は死んだものです。これは悪霊の信仰と同じです(ヤコブ 2：19)。悪霊は神様に降伏したり、悔い改めることはありません。礼拝とは、自分を捨て、神様に降伏し、悔い改めること、また、自分の十字架を背負い、イエス様に従うことです。

第三番目、再び来られるイエス様です。イエス様が初めてこの地に来られたのは飼葉おけですが、次に来られるのは空中です。私たちは空中で主と会うのです。東方の博士は神様からの啓示の星を見て準備したように、イエス様が言われた世の終わりの前兆(惑わすもの、戦争や飢きん、地震、伝染病)は、私たちへのサインであり、準備をするように言われています。ヘロデが二歳以下の幼子を殺したように、世の終わりにも反キリストによる教会やクリスチャンへの迫害など、大きな患難があるでしょう。「…最後まで耐え忍ぶ者は救われます。この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて…終わりの日が来ます。」(マタイ 24：13、14) ある牧師は、日本の民の頭に覆いがかけられ、目と耳が塞がれている幻を見ました。それは、イエス様について見ることに、聞くことができない状態を指します。その覆いを破るのは、福音を伝える伝道です。この度、七人の伝道チームが来られました。博士たちが厳しい旅をしたように、チームは人の拒絶や憎しみに耐え忍びながら伝道し、厳しい旅をされました。しかし、彼らは自分を無にし、ますます聖霊に満たされていました。博士たちが帰る時に別の道が用意されていたように、艱難の時にも私たちに携挙の道が用意されています。